



「医師確保ができない」、「赤字体質脱却ができていない」、「若い世代に負担をおしつける」などの理由で市立病院・診療所の統合や、県立病院との統合を求める意見が繰り返し出されていますが・・・。

「新医療センター」建設で財政が破綻することは想定されません

「新医療センター」のため財政計画には100億円が盛り込まれています。そして、病院への繰入金も現在の水準（15億円前後）を想定して組まれています。

病院新築での財政破綻は想定されていません。

「新医療センター」は医療施設としては現在の約半分の規模になります。維持費が縮減されるほか、繰入金の圧縮も今後図ることができると想定できます。

「新医療センター」建設自体は、1億1千万円ずつ30年間で返済する計画です。

また、運営のために毎年15億円前後（国からの交付税で3割ほ

ど補填されています）一般会計から繰り入れられており、財政計画にも盛り込まれています。

合併以来、市の全体の借金（債務）は大きく減っており、100億円の前倒し返済をしたとされています。

問題になるのは、一般会計の繰入金だと考えます。

令和2年度1人あたり約1万3200円の繰り入れですが、現在の人口推計で、令和2年（2040年）に約1万8000円になる計算です。

この時点で、まごころ病院、各診療所は4年以上経過するため、建物の更新が問題になること

市立医療施設の集約・統合で、

経営が黒字になり医師が確保できるのか疑問です

市立医療施設の統合を求める意見が多くあります。

「統合」の検討求める趣旨を含んだ請願が令和7年（2025年）6月議会に複数提出されました。

赤字体質脱却を求め、医師確保が困難だとして「新医療センター」建設の見直しを求めるものです。

県立病院との統合について

そもそも現実的なのか疑問があります。

統合の協議に入って、いつ構想がまとまるのかわかりません。そういう中、総合水沢病院の耐震化や、大規模修繕を行うことは現実的ではありません。

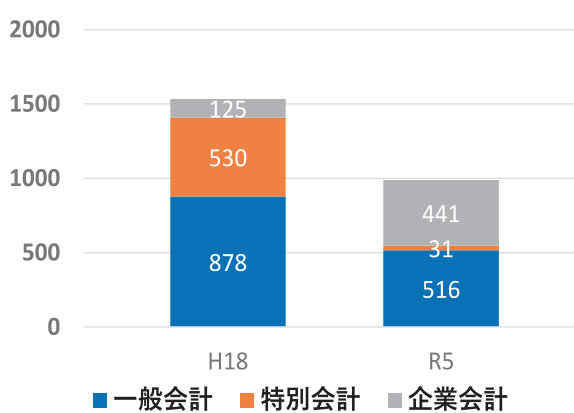
現在の県立胆沢病院と総合水沢病院の救急搬送件数を胆沢病院に集中させることも、現実的とは言えません。

「在宅医療」・「看取り」などに取り組める体制が必要です

奥州金ケ崎地域では、「在宅医療」・「看取り」が県内では弱いと指摘をされています。

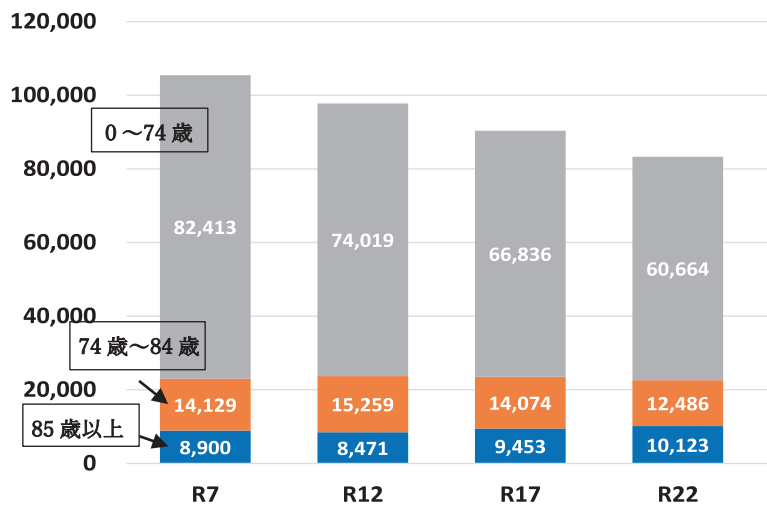
これらを強化するためにも、現在の市立医療施設を維持しながら進めることが求められていると考えます。

市債残高の推移(単位：億円)



『奥州市財政白書』＜令和5年度＞（確定版）より抜粋

奥州市の将来人口推計(人)



2025年4月新医療センター住民説明会資料より

市立医療施設の統合について

約1000件の救急を受け入れている総合水沢病院、訪問診療や在宅医療に重きをおくまごころ病院、僻地診療を担う衣川診療所、予防医療に取り組む前沢診療所は、それぞれ機能が異なります。

機能が異なる施設を統合して、そのすべてを継続することは極めて困難です。

各分野の医師の皆さんが統合された病院で継続して医療活動を続けることは難しいと考えます。

民間医院の医師の高齢化や後継者問題も大きな問題だと指摘されています。場所の問題もあります。まごころ病院や各診療所を支える点からも「新医療センター」の早期開設が望まれると考えます。

**在職している医師を大切にしながら、将来像を明確にして
さらなる医師確保に取り組めるようにすべきと考えます！**